

令和元年11月27日

# ふたじま

北九州市立二島小学校  
校長 谷口 親史

## 平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

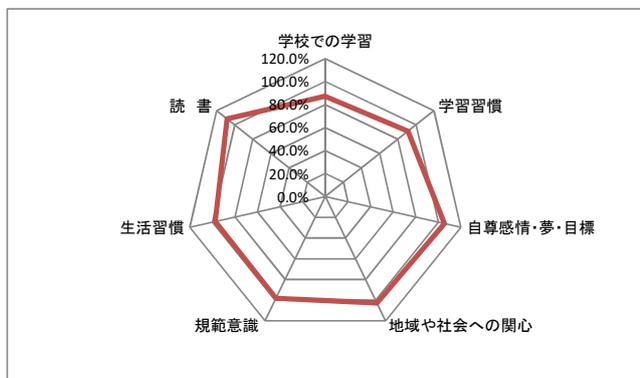
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	読む能力に関しては、全国平均を上回っています。しかし、その他の話す・聞く、言語についての知識・理解に関しては下回っています。特に、書くことに関しては、課題をもっている児童が多いようです。	下回っている
算数	量と測定の領域を苦手としています。また、知識・理解の正答率は大きく離れていませんが、それを扱う技能については苦手さが見られます。選択式の問題は比較的できますが、記述式の回答になると無回答が多くなる傾向があります。	下回っている

### 2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



#### 質問紙調査の結果分析

学習習慣は、普段1時間以上学習をしているという児童は全国平均より多いですが、自分で計画を立てて勉強している児童は少ないです。宿題や塾等での学習が中心になっているようです。学校での学習は、調べたことを発表したり、自分で問題を解決する方法を考えたりするといった主体的な取り組みをする必要があります。読書が好きという児童は全国平均より高く、国語での読み取り課題の正答率が高くなっていることにつながっているのではないかと考えます。将来の夢をもつ児童や自分には良いところがあると答える児童が多く、自尊感情は高い傾向が見られます。

### 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

読み取る力に優れている一方で、記述式で回答する問題に苦手さがあります。自分の考えをまとめて書く体験を授業の中に取り入れ、表現する力を高めていく必要があります。また、国語の漢字や算数の図形などの基本的な知識に苦手意識をもつ児童がいるため、基礎的な知識はしっかりと身に付けさせる必要があります。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭学習は行っていますが、宿題などの与えられた課題の取り組みになっているため、計画を立てて自ら学ぶという主体的な取り組みを行う力を育てる必要があります。自尊感情は高いため、自分を見つめなおして、自分にとって必要なことを考えて取り組むという経験を積ませるようすることで主体性を伸ばしていく必要があります。